

武蔵野市文化振興基本方針 第1・2回策定委員会 主な意見

★のついた意見は第2回策定委員会でのご意見です。

■方針で取り扱う文化の範囲

【範囲を絞り込むのか、広げるのか】

- 市民の役割も示されると思うが、やはり行政が関与できる範囲もあると思うので、その範囲に絞り込んでいくとよいと思う。
- 「文化」は生涯学習とも関連するが、どこまで範囲を広げるのか。
- 他の行政計画で議論され、施策等として位置づけられていることはよしとして、取り上げられていない部分に絞って議論するべきだと思う。
- 子どもを対象に考えると、文化は広く捉えられてもよいのではないかと思う。

【武蔵野らしさ(方針の特徴)】

- 「芸術」ではなく「文化」となると幅広い検討が必要だが、結果としてできる方針が広く浅いものになるのではないか。「武蔵野市の文化」を定義して、対象やキーワードなど、議論の焦点を絞り込むべき。
- 他自治体と代替可能なものではない「武蔵野らしさ」について議論することになると思う。そのためには自分たちが目指したいまちや住みたいまちを議論し、そこにあるとよい文化を話せるとよい。
- 武蔵野市は、市外から様々な生活をしている人たちが寄り合ってつくられてきたまちであり、そういった歴史そのものが市の文化であると感じている。そのために寛容性があると思っている。

■文化方針の対象(総論)

【市民を中心とした方針】

- 方針では、子ども、子育て世代、高齢者など、対象となる市民ごとに考え方を示してもよい。
- アンケートは文化に関心のある人が回答するものだ。これまで市の事業は関心のある人を対象としてきたと思うが、これまで視野に入っていなかった人をフォローしていくことは大事だ。
- 市のユニークさを市外にPRするためのもの、広域的に文化を振興するためのものという考え方は理解できるが、市民が文化的な雰囲気を感じられるまちにすることも重要だ。子どもも重要だし、高齢者も遠くには出かけられないので市内の環境が重要だろう。
- 武蔵野市の方針であるので、対象は市民だと思っている。

【広域的な方針】

- 武蔵野市の立地や交通アクセス、また文化施設の整備状況から考えると、市内にかぎらず、周辺自治体を含んだ広域的な文化振興を検討してはどうか。
- 広域的にという意見があったように、市だけで終わる必要はなく、交通の便を利用して様々な場所に行って文化を堪能すること、他の場所から人が多く来て、文化を楽しみ、武蔵野市が賑わうことも良いことであると思う。それは武蔵野市がいかにかユニークで他とは違う色彩を持った文化のまちをPRしていくことになる。

★市としても視野を広げてもらおうと相互にメリットがあると思う。市外にも目を向け、近隣自治体にまで範囲を広げていってもよいと思う。

【連携に向けた方針】

★アートNPOのような主体も登場していない。発表・活動の場は取り上げられているが、アートプロジェクトを実施しようとしている市民や学生、大学との結びつき等、積極的なマネジメントも含めた活動も取り上げられるとよいと思う。

■方針の対象(各論)

【子どものための機会のあり方】

○子どもについては、機会を与えてもらっているが、子どもがやりたいことを自由にできる場所や機会はない。そのような場について議論したい。

○子どもの文化体験が、体験キット化しているため、順調に進んでいるようだが、意欲、関心を持たせるのは難しい。子どもが自分なりに思い切り取り組み、「自分事」として文化をとらえられるようになるとうい。

○子どもを対象に考えると、文化は広く捉えられてもよいのではないかと思う。【再掲】

★例えば、障害を持った子どもを含め、個性を伸ばせるような絵画教室などは民間にはたくさんあると思うので、そのような情報提供について関係機関が連携できるとよい。

【高齢者のための機会のあり方】

○高齢者も遠くまで行けないので、市内で文化的な潤いを感じたいというところもあるだろう。【再掲】

★高齢者や障害者が、トイレの設備や車椅子で行っても問題ないかなどの精神的な壁を感じることなく鑑賞・参加できる方が重要であると思う。

★前期高齢者と後期高齢者は状況が異なる。後期高齢者は文化事業に招待し、楽しんでいただくことが中心になると思うが、前期高齢者はまだまだ元気なので、別の視点でアプローチした方がよい。

【障害者のための機会のあり方】

★高齢者や障害者が、トイレの設備や車椅子で行っても問題ないかなどの精神的な壁を感じることなく鑑賞・参加できる方が重要であると思う。【再掲】

【文化に触れられていない方】

★「省みられていない人」を文化事業の対象にした方がよいということである。文化の光が当たらない、チャンスに触れられていない人にも光を当てるような施策を考える必要があると思う。

【民間・市民との連携】

★民間の取組を応援してくれる機会があれば文化的な事業が立ち上がる機会も増えると思う。民間にはパワーのある人たちもいるので、そのようなエネルギーを活かしていけるとよい。一方、公的な施設が十分に利用されていないため、活動する人と施設を結びつけることも応援になると思う。

★例えば、障害を持った子どもを含め、個性を伸ばせるような絵画教室などは民間にはたくさんあると思うので、そのような情報提供について関係機関が連携できるとよい。【再掲】

★限られたリソースしかない中で、民間活力によって効果を広げられるのではないか。「民間との連携を視野に入れた効率的な文化政策の工夫」についても、議論のポイントに入れてはどうか。

【アーティスト・担い手との連携】

- ★武蔵野市ほど豊かであれば、ぜひ創造性の豊かな場所やアーティスト支援などの事業を考えていけるとよいと思う。そうでなければ、他の地域や他の国が作った文化を消費することで終わってしまうのではないか。
- ★文化の担い手をどのようにフォローしていくのかという観点が足りない。そういった対象にどのように対応していくのか、文化の担い手を呼び込みたいと思っているのか。文化の担い手にとって行きたい、活動したい場所にしていきたいと思っているのか。

■事業のあり方

【全体的な方向性】

- ★様々な取組をしているものの、事業全体での統一感がないように感じた。武蔵野として何をやりたいのか。全体的には、武蔵野らしさがあるのであれば、それを伸ばせばよいし、ないのであれば方針の検討のなかで作っていけるとよいと思う。
- ★全体的に受け身な事業が多いように思った。【再掲】

【市民が創造的な活動を行い、発表できる場の提供】

- ★全体的に文化を鑑賞する事業が多く、ワークショップや市民が発表できる機会が少ないように感じた。質の高い事業を鑑賞することもよいことだとは思いますが、ワークショップのような地域の個性が出る事業はもっと充実させてもよいのではないか。
- ★ワークショップは実施されているものの、与えられているものであり、アートNPOのような主体も登場していない。発表・活動の場は取り上げられているが、アートプロジェクトを実施しようとしている市民や学生、大学との結びつき等、積極的なマネジメントも含めた活動も取り上げられるとよいと思う。【一部再掲】

■方針の期間

【10年間は長いか、短いか】

- 社会や経済の情勢も変化すると思うので、方針の期間が10年程度は長く感じる。一方で、文化は10年程度をかけて育てていくものでもある。10年間で複数のステップにわけて議論したい。

■将来的な方向性

- 国は文化振興条例を策定することを勧めているところなので、武蔵野市としても検討してもよいのではないか。
- 文化振興条例をつくった方がよいと思う。